富山第一高等学校

令和7年度　学校総合評価

重点課題に関する総合評価

今年度も８つの重点課題を掲げ取り組んだ。A 評価が４つ，B 評価も４つで，概ね目標は達成できたと考えている。

数年前から取り組んでいる ICT の活用，各教科の評価方法などは，定着しつつあるものの，ICT 活用技術のスキル格差，評価方法に対する認識不足をはじめとして不十分な側面も残る。総合的な探究の時間は６年度から１つの教科と捉え，探究科主任を置き３か年を見通したカリキュラムの編成に取り組んでいる。その中で昨年度に続き，連携校の支援を得て高大連携 PBL を２学年で実践した。

生徒たちの多様な価値観を尊重しつつも，集団の中で生活するための基本的生活習慣や規範意識の定着に取り組む必要を感じており，その指導を継続している。一方で生徒の主体性を育むべく，６年度から生徒議会や委員会を定期的に開催しており，生徒会活動の活性化が進んだと感じている。とりわけ執行部の企画・運営には積極性が見られた。

全校生徒が個人端末を持ったことで，学習課題や大学等の入試情報，学校行事に関する連絡などの迅速な発信に役立っている。保護者（生徒）への情報発信や緊急連絡に加え，保護者からの欠席連絡等への利用も定着してきた。

今年度も高等学校 DX 加速化推進事業(DX ハイスクール)に応募し，採択されたため，施設設備を充実させるとともに，その活用に向けた教員研修を行った。また，豪雨，台風，大雪などの自然災害に備え，オンライン授業を視野にオンラインデーを今年も実施した。

次年度への課題と方策

生徒の持つ１人１台の端末の活用が進みつつあるとはいえ，本来最も活用すべき学習用のツールとしての役割はまだまだ不十分である。授業の中でも，家庭学習においても，教育の向上に繋がる効率的な活用に向けた教員の一層の努力が求められる。また，高等学校 DX 加速化推進事業に対する取り組みも継続し，施設設備の充実は進んだが，どのように教育活動に活かしていくかが課題とも言える。

ICT 活用が進む中，人間関係が希薄になってはいけない。全日制高校の強みを活かし，直接対話をすることの重要性を生徒に考えさせたい。生徒同士，生徒と教師のかわす言葉の中に，温かみが感じられる人間関係の構築が求められる。学校行事における協働作業や，総合的な探究の時間におけるグループ活動などは，そうした意味でも重要な役割を果たすものと考えている。

夏期の暑さ対策として，制服の選択肢を増やしている。また，多様性の時代に対応することを視野に校則の見直しを進めていく必要がある。一方で，多くの生徒が一つの枠組みの中で生活していく上で，規範意識の向上が個々の人格を守るために必要であることを伝えていきたい。

学校教育計画（アクションプラン）

重点課題１　**学習活動**

目　　標	①ICT を活用した授業および家庭学習の定着 ②本校の実態に即した評価方法の確立
現　　状	①生徒が個人端末を利用するようになって 6 年目である。Google Classroom を活用した生徒への情報伝達や個人端末を使った授業展開は概ね定着してきたように思われる。しかし，家庭学習を促すための ICT 活用については教員間の差は大きい。 ②昨年度ですべての教員が新課程の授業及び評価方法を経験した。各教科内での評価方法の統一は概ねなされていると思われる。ただ，「主体的な学習に対する態度」の評価については，教員間の認識の統一が難しく，今後の課題となっている。
方　　策	①今年度からスタディサプリが全学年利用可能となったことから，生徒への課題を動画配信で行うなど，ICT を積極的に活用した家庭学習の方法を取り入れていく。また，今年度もオンラインデーを実施し，ICT を利用した授業に教員も生徒も慣れていき，ICT スキルの維持・上達の機会を作る。 ②教員間の評価に対する認識のずれを解消するため，考査採点日等を利用し，授業担当者の間で綿密な打ち合わせを行う。
達 成 度	①タブレットの授業での利用はかなり浸透してきているものの，課題をオンラインで配信・提出させることについては個人差がある。また，スタディサプリの利用状況は限定的である。 ②「主体的な学習に対する態度」に関する評価について，試行錯誤しながらも，担当者同士で話し合う機会を増やし，評価方法について，教員間の差がないように心がけた。
具体的な取組状況	①ICT スキルの向上を図るとともに，実際の自然災害に備えるためオンラインデーを 7 月に 1 回（1～7 限）実施した。11 月から感染症による学級閉鎖が断続的に続いたが，その際にもオンライン授業を行い，学習活動を継続することができた。 ②評価の仕方について，各教科内での共通理解を促すとともに，個別に声をかけ，認識を変えてもらうように促した。
評　　価	B
次年度への課題	①継続して教員の ICT スキルの向上を図るとともに，オンラインによる課題の配信・提出や動画教材の利用を促進する必要がある。 ②評価方法が浸透することに加え，その評価が生徒の学力向上に繋がるようにする必要がある。

重点課題２　**探究活動**

目　　標	3 年間を見通した総合探究のカリキュラムを編成し，その実践を通して生徒の課題解決能力を育む
現　　状	①2 学年における大学との連携活動においては，生徒の実態に合った探究活動になっていない可能性がある。

	②教員の探究活動指導力をいっそう向上させる必要がある。 ③高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール）で求められているデータサイエンス教育の要素を探究活動に導入する必要がある。
方　　策	①教員研修の充実により，これまで以上に生徒の成長を促すことができるよう，教員の指導力を向上させる。 ②2 学年の探究活動に BI ツールを活用したデータサイエンス教育を導入することで，データに基づいて課題解決する能力を養成する。 ③1 年間を通した PBL（美術コース），職業指導部と連携した探究活動（総合コース情報ビジネス系）を新たに実施する。
達 成 度	①3 回の教員研修により，指導力向上につなげることができた。 ②Tableau を導入し，基本的な操作を体験させることができた。 ③概ね実践することができた。
具体的な取組状況	①Tableau 入門講座，PBL の進め方講座，探究の構造とアイデア発想の基本を学ぶ講座の 3 つを教員研修で開催し，指導力向上につなげた。 ②3 つのコース（総合・特進・S 特進）の生徒が，Excel と Tableau の基本操作を学び，データリテラシー力を向上させた。 ③大学・企業と連携した PBL 講座を新たに設計し，実践した。北陸大学との連携についても，生徒の進路希望にあわせ，2 講座を追加した。
評　　価	A
次年度への課題	①生成 AI を用いた問いのブラッシュアップやアイデア発想など，新しい探究指導の方法についても，教員研修を通して学ぶ必要がある。 ②データリテラシー力の向上と Tableau の基本操作習得からさらに発展させ，オープンデータ分析等による課題発見につなげる必要がある。 ③データサイエンス教育の要素がより強く反映された探究講座の設計と運営が必要である。

重点課題３　**学校生活**（第１学年）

目　　標	高校生活の土台としての基本的生活習慣の確立
現　　状	①高校入学から間もない 1 年生は新しい環境への期待と同時に，不安を抱える生徒も少なくない。 ②友人関係の構築や生活リズムの変化に戸惑う姿も見られ，基本的生活習慣が安定しない生徒も一部に見受けられる。
方　　策	①学級活動や HR を活用し，挨拶・時間管理・身だしなみ・提出物の期限遵守といった基本的生活習慣の重要性を繰り返し伝える。 ②生徒一人ひとりの不安や課題を早期に把握するため，個人面談を定期的に実施することや教員間での情報共有を行い，生徒の様子を把握しながら必要に応じて支援体制を整える。 ②温かい人間関係を土台に，安心して高校生活を送れるよう継続的な声かけとフォローを行う。
達 成 度	概ね達成された。
具体的な	①学級活動や HR を通して，挨拶・時間管理・身だしなみ・提出物の期限遵守といった基本的な生活習慣の大切さを繰り返し伝えてきた。ま

取組状況	た，入学直後の生徒が抱える不安や戸惑いに配慮し，個人面談を定期的に実施するとともに，教員間での情報共有を行いながら生徒一人ひとりの様子の把握に努めた。 ②日常的な声かけや指導を継続したことで，多くの生徒が学校生活のリズムに慣れ，基本的生活習慣を意識して行動する姿が見られるようになった。
評　　価	B
次年度への課題	①一部の生徒においては生活リズムの乱れや提出物の遅れが見られるなど，継続的な支援が必要である。新学年の早い段階から生徒の状況を丁寧に把握し，個別の声かけや支援をより充実させていく必要がある。 ②また，学年団および教員間での情報共有を一層密にし，生徒が安心して学校生活を送れる環境づくりを継続していくことが必要である。

重点課題４　**生徒指導**

目　　標	①公共交通機関利用マナーの向上及び自転車運転ルールの徹底 ②すすんで挨拶ができる生徒の育成 ③地域の状況，社会常識，時代の進展などを踏まえた校則の確立
現　　状	①昨年度の自転車の接触事故は 28 件で，事故件数が減少していない。一方，自転車利用時におけるヘルメット着用の努力義務が課されている中で，着用率が極めて低い。 ②溌剌と挨拶をする生徒は多いが，しっかりと挨拶のできない生徒も一定数見られる。 ③今は校則の遵守を徹底し，規範意識の醸成を図る段階にある。少しずつではあるが規範意識が向上しているように感じられる。
方　　策	①校前指導を行う。 ②「さわやか運動」では，生徒会，保護者，地域住民と連携した挨拶運動を推し進める。また，乗車指導を行う。 ③学年集会などで公共交通機関利用マナーを訴え意識喚起を行う。 ④交通安全指導の日を設け，通学路に出向き，交通指導を行う。 ⑤生徒会と連絡を密にし，生徒自らが校則と向き合えるよう取り組み，生徒が主体的に校則を守るような土壌作りを行う。ヘルメットの着用についても積極的に推奨したい。
達 成 度	①今年度の交通事故件数は 13 件であり，昨年度と比較して半分程度に減少した。ただ自転車のマナーや公共交通機関の利用モラルに関する苦情がまだ寄せられている。生徒のマナー向上を推進したい。 ②さわやかな挨拶をする生徒が多い。しかし挨拶ができない生徒も若干見受けられる。 ③校則の見直しを図っている。生徒自らがルールの必要性を理解し，遵守する心を養うよう働きかけている。その効果は徐々に表れているように思われる。
具体的な取組状況	①昨年度に引き続き，保護者や地域の方々と連携しさわやか運動を行った。

	②機会を見て乗車指導を行った。 ③生徒会とタイアップしてヘルメット着用の啓発運動を行った。
評　　価	B
次年度への課題	①生徒に SNS 利用に伴う危険性を理解させる必要がある。 ②学年集会等でさわやかな挨拶の重要性を薫陶する。 ③自ら律し自ら正す重要性と必要性を意識させたい。

重点課題５　**生徒会活動・特別活動**

目　　標	生徒会活動，学校行事，ボランティア活動等を通し，主体的に活動できる生徒の育成
現　　状	①生徒会改革 2 年目を迎え，教員側に各委員会を運営するイメージができ, 各委員長, 副委員長を中心とした委員会活動が少しずつ動き 始めたが，まだ生徒だけで委員会や各行事を十分に切り盛りできる とは言えない。 ②生徒側から現状改善のための提案や要望を出すためには, それぞれの事案について，思い付きではなく，その理由(材料)を集めることが必要である。また，時代に則った内容となっているか，生徒が中心となってコントロールできるかなど, 生徒に多角的視点を持たせることが今年度の課題である。
方　　策	①各委員会活動や学校行事の際に，関係部署(教員側)と委員会(生徒会執行部)を結び付け，教員と生徒の接点を持たせながら企画・運営にあたることを意識する。 ②各委員会では委員長を中心に PDCA サイクルを回すことを徹底させる。 ③生徒会活動や学校行事等を, 教員主導ではなく生徒会執行部の生徒が中心になって行えるように作り替えていく。
達 成 度	①文化祭・体育大会・各委員会活動全般にわたって担当教員と生徒が連携を取りながらスムーズな企画・運営ができた。 ②委員長は前期・後期の半期にて替わるため P(企画)の部分の脆弱性を感じている。 ③生徒会執行部が中心となり様々な活動を行えるようになってきているが計画性の弱さから時間を意識した活動ができていない。
具体的な取組状況	生徒会執行部では定期的な会議を重ね, 生徒主体の活動に取り組むことができたが，3 年生を含む前期のメンバーと，1・2 年生の後期メンバーでの活動力に差があったように思われる。
評　　価	A
次年度への課題	①生徒会執行部員に最も必要なことはビジョンであり, 学校がどのようにあるべきかを常に意識させなければいけない。 ②新 2 年生の執行部員が 1 名しかいないため, 新入生の執行部員の確保が急務である。 ③S 特進コースの放課時間が遅いため，執行部員全体での活動が困難な状況が見られる。S 特進コースの生徒の学校生活の充実のための対応策を考えていきたい。

重点課題６　**保健指導**

目　　標	①生命を尊重し，生涯にわたり自らの健康を管理できる生徒の育成 ②感染症予防対策の実践力の向上 ③学内の衛生環境の改善
現　　状	①スポーツが盛んで，災害発生件数が多く（2024 年度災害発生者数は 110 名，発生率 9.65％），大きな災害も含まれる。 ②防災教育，安全教育，健康教育等，生徒が生涯を通じて健康な生活を送るために必要な教育を受ける機会が少ない。 ③全国的にも様々な学校感染症が流行しており，集団での感染予防対策が必要である。
方　　策	①保健委員会の活動を通じて，生徒が主体的に健康を管理できる資質を養うと共に，感染症予防対策の実践や学内の衛生環境の改善を図る。 ②感染症予防や衛生環境の重要性について，保健だよりや委員会活動等を通じて啓発活動を継続する。 ③学校行事やホームルーム等を利用して，性教育，薬物乱用防止教育，防災教育，救命講習等を行う。
達 成 度	①災害発生件数は昨年度と同等である。 ②今年度も啓発活動は継続的に実施している。また委員会活動で衛生環境の調査や薬物乱用に関する情報発信も行うことができた。 ③これまで行ってきた講習会も改善を図りながら実践できた。加えて一学年とも協力して防災教育を行うこともできた。
具体的な取組状況	①委員会活動を充実させたことにより生徒が主体的に学校衛生環境を整えたり，薬物乱用に関する啓発活動を実践したりすることができた。 ②各事業を見直し効率化を図るとともに，一学年と連携し防災教育を行うなど，新たな取り組みを行うことができた。
評　　価	A
次年度への課題	①校内の衛生環境の向上 ②防災教育の推進 ③カウンセリング体制の充実

重点課題７　**進路支援**

目　　標	①入試改革に伴う入試制度及び大学入学共通テストの情報収集と分析，生徒への発信 ②動画配信等，オンライン教材の活用による生徒の基礎学力の向上 ③多様化する入試情報の迅速かつ正確な発信
現　　状	①入試制度の変化が早く，対応が遅れる教員や生徒が見受けられる。 ②それぞれの生徒が目標とする進路先の，選抜方法に合わせた対策や学力向上が求められる。 ③進路目標の決定が遅く情報収集や対応が遅れ，直前になって準備に追われる生徒も多い。早い段階からその学年に応じた指導が必要である。

方　　策	①大手予備校からの情報や各種学校説明会に参加して得た情報を取捨選択し，各学年の担任に校内 LAN などを活用して適宜配信し，情報の共有を図る。 ②各種学校や業者から送付されてきた資料は，校内 LAN を活用し，担任を通じて生徒に配布できる環境を整える。 ③各学年に応じた適切な情報を配信する。 １学年：２年次に選択する系の情報に加え，１年次から受験を意識できるような情報の提供 ２学年：各種学校の設置する学問分野の情報に加え，入試制度に関する情報の提供 ３学年：志望校決定の参考になる情報や入試制度および昨年度　の状況に関する情報の提供 ④生徒の進路志望調査をもとに，複数の教員が共通理解を持ち，進路実現につながる指導を行う。 ⑤スタディサプリを利用し基礎学力の向上を図る。 ⑥動画配信を利用した大学の講義を見たり，大学の教員と直接話したりすることによって，志望進路の具体化につなげる。 ⑦受験に関する様々な事項のオンライン化に対応し，情報提供を行う。 ⑧生徒が進路意識や学習に対するモチベーションを高め，早期に進路目標を設定できるように，大手予備校関係者による「進路ガイダンス」や，受験情報提供企業の協力を得て大学・短期大学・専門学校などの担当者より入試に関する情報を直接得る「TOMIICHI 進路フェスティバル」を実施する。
達 成 度	①大学入学共通テストなどの情報は Classi を用いて３年生の生徒全体に配信した。 ②各教科・科目においてスタディサプリを課題等で利用している授業があった。 ③「TOMIICHI 進路フェスティバル」を今年度はじめて実施し，生徒・保護者は多くの学校の情報を得ることができた。また，各学校からの情報を「進学通信」として slack を用いて教員に配信した。
具体的な取組状況	前年度の進学指導のノウハウを活用し，一層の充実を図るため，「進学指導に関する担任意見交換会」を実施した。そこでは過去の合否状況の追跡調査を提示し，担任が今後の進路指導の参考にできるようにした。
評　　価	B
次年度への課題	①　生徒の進路志望調査を担任がより活用できるような工夫 ②　受験レポートなどの資料閲覧時における，タブレット端末の活用促進 ③オープンキャンパスへの参加等，生徒の自発的に学校の情報を得られるようにする。

重点課題８　**情報発信**

目　　標	①多様な手段で本校の教育活動を広く発信する。 ②在校生や保護者の視点から，本校の魅力を受験生とその保護者に伝え

	る。 ③中学校と情報を共有し，信頼関係を築く。 ④目標を部内で共有し，効果的に生徒を募集する。 ⑤業務の属人化を防ぎ，効率化を図る
現　　状	①学校公式インスタグラムの周知が不十分である。 ②在籍する生徒や卒業生が本校の魅力を発信する機会が少ない。 ③呉西地区の中学校への情報提供や情報収集が不十分である。 ④生徒募集活動が計画的・組織的に行われていない。 ⑤専門業務において担当者の負担が大きい。
方　　策	①SNS やホームページを活用し，本校の魅力を効果的に発信する。 ②受験生向けイベントの企画・運営に生徒が積極的に参加する。 ③入試対応マニュアルを作成し，誰でも質問に対応できるようにする。 ④明確な目標を設定して，達成に向けて創意工夫しながら取り組む。 ⑤業務を複数の教職員で分担し，負担を軽減する。 ⑥イベント後にアンケートを実施し，課題を会議で共有・改善する。
達 成 度	明確な数値目標を部内で共有し，戦略的に広報・生徒募集活動を実施した。オープンハイスクールでは具体的なテーマと目標を設定し，在校生が主体的に企画・運営に参画した。また，SNS・ホームページ・中学校での説明会等を通じて，本校の魅力を多方面から発信することができた。
具体的な取組状況	①SNS およびホームページを活用し，学校行事や部活動の様子を継続的に発信し，本校の明るい雰囲気を伝えた。 ②オープンハイスクールにおいて，生徒会が学校紹介動画を制作し，中学生に向けて本校の魅力を紹介した。 ③ミライコンパスの出願手順をわかりやすくまとめたガイドを作成し，ホームページに掲載した。 ④学校通信・ポスター・学校紹介チラシを作成し，本校の特色や奨学金制度について広く周知した。 ⑤総務部会議を定期的に開催し，各種イベントの見直しを図り，役割分担して準備や運営をした。 ⑥ 今後の教育活動や生徒募集活動の改善に活かすために，中学校向けアンケートを実施し，貴重な意見を収集した。
評　　価	A
次年度への課題	①行事・部活動に加え，授業や総合的な探究の時間の様子など，日常的な学習活動も積極的に発信する。 ②学校生活，コースの特色，学費・諸経費，通学方法等について，受験生・保護者・中学校が求める情報をより具体的かつわかりやすく提供する。 ③受験生・保護者・中学校のニーズを反映したより魅力のある入試制度や奨学金制度を設計し，本校専願者の拡大を図る。 ④ミライコンパスの操作方法や入試関連の問い合わせに対応するために，よくある質問とその回答を整理し，業務効率化を図る。 ⑤出願動向や入試結果，アンケート結果を分析し，効果的な生徒募集戦

	略を立案し，計画的・組織的に実行する。 業務マニュアルを作成し，複数担当制を確立して属人化を防止する。